NO.MV65G10

MG36-V6 ｼﾘｰｽﾞ　通信表示器

取扱説明書

御使用前にこの取り扱い説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
その後、大切に保管し必要なときお読み下さい。

御使用上の注意事項

本製品は精密機器ですので取り扱いには十分御注意ください。

1. 設置場所は下記の場所を避けて下さい。
   - ・直射日光があたる場所や周囲温度が-10～50℃の範囲を越える場所
   - ・塵埃、塩分、鉄粉が多い場所
   - ・相対湿度が 25～85%の範囲を越える場所や温度変化が急激で結露するような場所
   - ・腐食性ｶﾞｽ(特に硝化ｶﾞｽ、ｱﾝﾓﾆｱｶﾞｽなど)や可燃性ｶﾞｽのある場所
   - ・振動、衝撃の激しい場所
   - ・水、油、薬品などの飛来がある場所
   - ・ﾗｼﾞｴｰｼｮﾝﾉｲｽﾞの影響が考えられる場所
2. 各種ｱﾅﾛｸﾞ出力機器との接続について
   ﾉｲｽﾞによる誤動作防止として次の対策をとって下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝに 1 芯ｼｰﾙﾄﾞ線を御使用下さい。
   - ・入力ﾗｲﾝは高圧線や動力線との平行配線、同一電線管配線を避け、必ず単独配管とし、できるだけ短く配線して下さい。
3. 供給電源について
   電源に大きなﾉｲｽﾞがのっている場合には、誤動作の原因になりますのでﾉｲｽﾞｶｯﾄﾄﾗﾝｽなどを御利用下さい。
   また、頻繁な電源の ON/OFF は避けて下さい。内部記憶素子異常になることが有ります。

□保証範囲

（1）この製品の保障期間は納入後 1 年間と致します。保障期間内に弊社の責による故障が生じた場合には、その機器の故障部分の修理または交換を行います。
ただし、次に該当する場合にはこの保証の対象範囲から除外させていただきます。
①お客様の不当な取り扱い、または使用による場合
②故障原因が納入品以外の事由による場合
③弊社以外の改造、または修理による場合
④その他、天災・災害・戦争などで弊社の責にない場合
なお、ここでいう保証は納入品単体の保証を意味し納入品の故障により誘発される災害はご容赦いただきます。

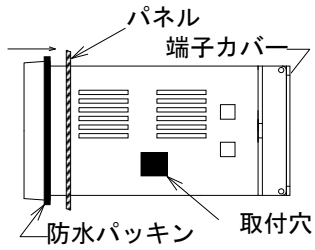
（2）この製品は、人命に関るような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いられることを目的として設計・製造されたものではありません。

ｴﾗｰ表示

動作中や設定などに異常があれば以下のエラー表示します。

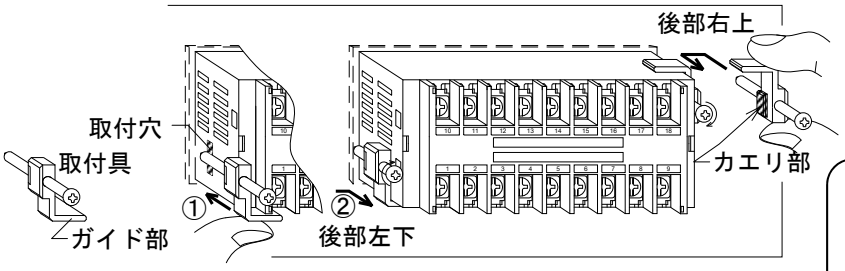
表示	原因	解除方法
（異常な表示）	計測が不可状態になっている場合。	自動復帰して初期ｲﾆｼｬﾗｲｽﾞ処理後、計測を行います。 なお、復帰しない場合は電源を再投入して下さい。
Error	内部記憶異常で設定ﾃﾞｰﾀに異常があった場合。	電源を再投入しｴﾗｰ表示を解除し計測を行う。 なお、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値が初期値に書き換えられている可能性がありますのでﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の確認を行って下さい。

取付方法



防水パッキンを取付け、本体をパネルに前面から挿入します。

付属品
- 防水パッキン(1 個)
- 取扱説明書（本書）(1 部)
- 端子カバー（1 個）
- 単位シール（2 種類各 1 枚）
- 取付具（2 個 1 組）



取付具を本体後部右上と左下の 2 箇所にそれぞれ取付けます。
①取付具のガイド部をケース左下コーナーまたは右上コーナーに沿わせながらケースの取付穴にはめ込みます。
②後方へ引きながらネジを 2 箇所均等に締めつけて固定してください。

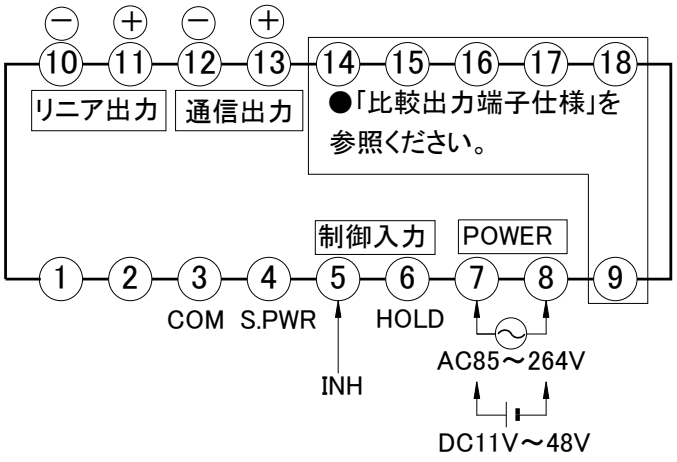
取付具ねじ締付トルク　**0.15N.m～0.3N.m**

⚠注意
0.3N.m 以上で締めつけるとケースおよび取付具が変形しますのでご注意ください。

端子配列および仕様

●端子配列

※端子⑨、⑫～⑱は各出力付の場合にのみ付きます。



NO	名称		内容
1	アキ		未使用
2	アキ		未使用
3	COM		COM 端子 端子⑤⑥用の COM およびｾﾝｻｰ電源（－）
4	S.PWR		＋12V ｾﾝｻｰ供給用電源
5	INH		禁止端子
6	HOLD		ホールド端子
7	＋	POWER	電源電圧
8	－		
9	(比較出力)		比較出力端子　　(型番により指定)
10	OUT(－)		リニア出力(－)
11	OUT(＋)		リニア出力(＋)
12	T.A		通信出力 A(－)
13	T.B		通信出力 B(＋)
14・18	(比較出力)		比較出力端子　　(型番により指定) ※3 頁参照

●定格仕様

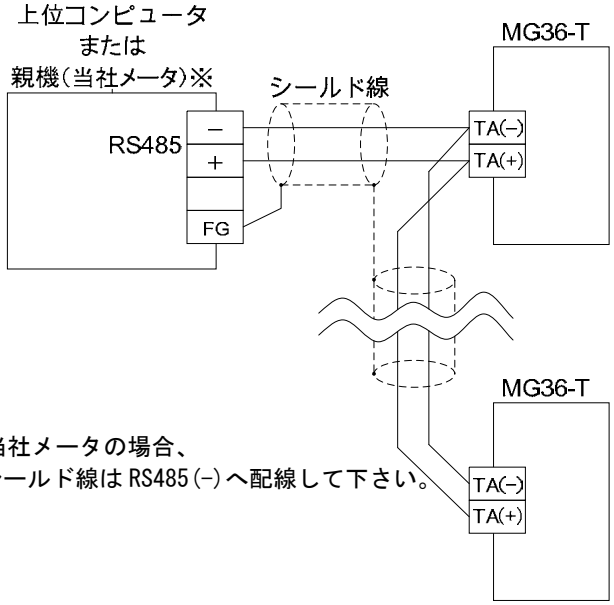
電源電圧	AC 電源ﾀｲﾌﾟ:AC85V～264V 50/60Hz 共用
	DC 電源ﾀｲﾌﾟ:DC11V～48V　ﾘｯﾌﾟﾙ率 5%以内
ｾﾝｻｰ供給用電源	DC12V 100mA
消費電力	約 10VA(AC ﾀｲﾌﾟ)　約 6W(DC ﾀｲﾌﾟ)
使用周囲温度	-10～50℃(ただし、氷結しないこと)
使用周囲湿度	25～85%RH(ただし、結露しないこと)
保護構造	IP65 （前面ﾊﾟﾈﾙ部）
外形寸法	$48^{H}\times 96^{W}\times 92^{D}$mm
質量	240g 以下

⚠注意
電源電圧は使用可能範囲内で御使用下さい。使用可能範囲外で使用しますと火災･感電･故障の原因となります。

●RS485 通信端子および仕様

上位コンピュータまたはメータ間通信の場合は当社メータと端子⑫（－）、端子⑬（＋）に配線してください。
（注）詳細、「通信概要」(5 頁）参照。

通信規格	EIA　RS-485 に準拠
通信方式	2 線式半二重
同調方式	調歩同期
伝送速度	1200/2400/4800/9600/19200/38400（bps）
伝送コード	ASCII
ネットワーク	マルチドロップ方式（最大 1：31 局）
ケーブル長	最大 500m
通信内容	表示値の書き込み読み込み



※当社メータの場合、
シールド線は RS485(-)へ配線して下さい。

●外部制御端子

・端子③（COM）との短絡で動作
・内部抵抗 1.5kΩ
・最小 ON 巾：20msec　応答遅れ時間：30msec 以下
・負論理入力（無電圧入力）
・ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ(NPN)入力する場合（以下のものをご使用ください。）
ON 時：残留電圧 3V 以下　　OFF 時：漏れ電流 2mA 以下

□INH 端子（端子⑤）

通信を禁止します。
COM（端子③）と短絡している間、通信を禁止します。
その間、表示値を保持し、点滅します。

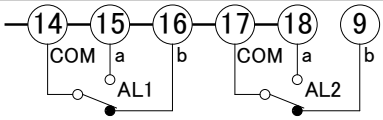
□HOLD 端子（端子⑥）

表示値の変更を禁止します。
COM（端子③）と短絡している間、表示値保持します。
（単に表示値保持するのみ）
※ﾎｰﾙﾄﾞ動作時も表示値の変更は可能で、ﾎｰﾙﾄﾞ解除後、変更した表示値に切り替わります。

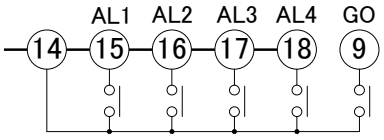
●比較出力端子仕様（型番により指定）

設定範囲	-199999～999999
出力形態	保持出力
出力応答時間	22msec 以下 ※ﾘﾚｰ出力は＋10msec
リレー出力	接点容量(抵抗負荷) AC250V 0.5A　AC125V 1A　　DC30V 1A
ﾌｫﾄﾓｽﾘﾚｰ出力	AC/DC250V　100mA　ｵﾝ抵抗 25Ω
ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀ出力	NPN ｵｰﾌﾟﾝｺﾚｸﾀ出力 残留電圧:1.5V　最大負荷電圧:30V 最大負荷電流:50mA

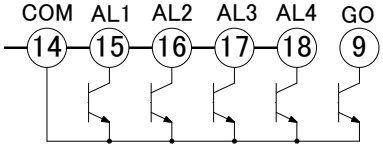
□2点リレーc接点出力付
（MG36□-2）



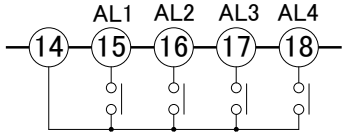
□4点ﾌｫﾄﾓｽﾘﾚｰ出力付
＋GO出力付（MG36□-3）



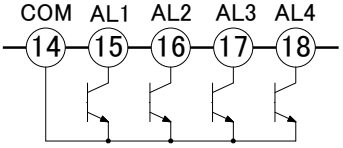
□4点ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀ出力付
＋GO出力付（MG36□-4）



□4点ﾌｫﾄﾓｽﾘﾚｰ出力付
（MG36□-5）



□4点ﾄﾗﾝｼﾞｽﾀ出力付
（MG36□-6）



□ﾘﾆｱ出力端子仕様（型番により指定）

出力信号	0-5VDC	1-5VDC	0-10VDC	4-20mA
負荷抵抗	5KΩ 以上			0～500Ω
出力変換速度	22msec 以下　　DA 変換出力			
分解能	約 1/40000　※ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値のｽﾊﾟﾝによる			
出力確度	±0.5%FS　ただし、23℃±5℃の場合			

端子⑫（－）、端子⑬（＋）に配線してください。
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ L1、L2 で出力時の表示値を設定します。

注:ﾘﾆｱ出力のｼｰﾙﾄﾞ線は端子⑫へ配線して下さい。

パラメーター一覧表

表示および出力に関する数値をﾊﾟﾗﾒｰﾀに設定します。前面ｷｰでﾊﾟﾗﾒｰﾀを設定し内部に記憶します。
（注）ﾊﾟﾗﾒｰﾀ L1～L2 はﾘﾆｱ出力付の場合のみ設定可能。

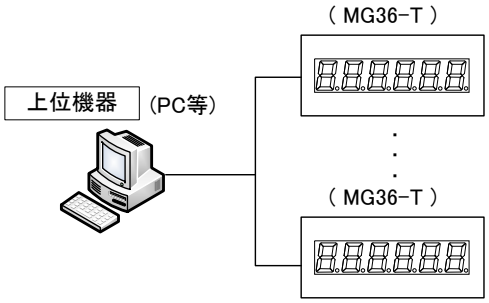
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ名称		内容説明	設定範囲 **( )内は出荷時設定値**
--1-	通信内容	本機の接続仕様を設定します。 PC:上位 PC と接続（通信表示器） H1:ﾒｲﾝ局[子機]（メータ間通信） H2:ｻﾌﾞ局[子機]（メータ間通信） ※H1 は、親機（当社ﾒｰﾀ）が必ず存在する場合に設定してください。 H2 は、H1 が必ず存在する場合に設定してください。 **重要：「H1」設定の場合のみ以下[1]～[4]を表示し設定可能となります。**	PC/H1/H2(PC)
[1]	本機の表示	ﾒｲﾝ局[子機]の表示内容を設定します。	A/b/C/d(d)
[2]	A データ送信先	A～C データを表示するｻﾌﾞ局[子機]のﾕﾆｯﾄ NO を設定します。 「oFF」設定時は表示無。 ※詳細、「②メータ間通信（パラメータ 1＝H1/H2 の場合）」5 頁参照。	oFF/00～99(oFF)
[3]	B データ送信先		oFF/00～99(oFF)
[4]	C データ送信先		oFF/00～99(oFF)
--2-	小数点位置	表示値（数値表示）の小数点位置を設定します。 「oFF」は「0」設定と同じく小数点を表示しません。 （注）文字表示データの表示時は本ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定は無効。	oFF/0/0.0/0.00/0.000/0.0000/ 0.00000/999-59/99.59.59/9999.59 (oFF)
--3-	通信断線エラー	上位 PC または当社メータからの通信が連続 10 秒間途切れた場合、表示値をエラー表示に切り替えます。エラー表示は、「------」を点灯します。 oFF：ｴﾗｰ処理無。（ﾒｰﾀ間表示は通常、直前のﾃﾞｰﾀを保持し継続する。） on：ｴﾗｰ表示。 ※ｲﾆｼｬﾗｲｽﾞ表示後の「 . . . . . .」表示状態で点灯し、 1 回目のデータを受け取り以後、エラー表示します。	oFF/on(oFF)
-L1-	ﾘﾆｱ出力上限値	ﾘﾆｱ最大出力時の表示値を設定(小数点を無視して設定)	-199999～999999(1000)
-L2-	ﾘﾆｱ出力下限値	ﾘﾆｱ最小出力時の表示値を設定(小数点を無視して設定)	-199999～999999(0)
-C0-	ﾌﾟﾛﾄｺﾙ切替	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝「PC」の場合に使用する通信ﾌﾟﾛﾄｺﾙを設定します。 A:HENIX b:MODBUS-RTU ※ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝H1/H2 の場合、本設定に関係なく常に A:HENIX で動作。	A/b(A)
-C1-	ﾕﾆｯﾄ NO	本機の通信ﾕﾆｯﾄ NO を設定します。 ※ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C0＝「b」の場合、設定範囲は 01～99 となります。	00～99(00)
-C2-	通信遅延時間	通信遅延時間は上位 PC などが「ｺﾏﾝﾄﾞﾌﾚｰﾑ」の送信を完了してから回線をあけわたし受信可能状態になるまでの時間を設定。（10msec 単位） コマンド/レスポンスの最適化にご使用ください。 「oFF」設定は 1～9msec 変動	oFF/on(on) on→10～500(10)
-C3-	通信速度	通信速度を設定。 単位：bps ※19.2＝19200bps、38.4＝38400bps の意。	1200/2400/4800/9600/19.2/38.4 (9600)
-C4-	ﾃﾞｰﾀ長	データ長を設定。 「7」：7bit 「8」：8bit	7/8(8)
-C5-	ｽﾄｯﾌﾟﾋﾞｯﾄ	ストップビットを設定。 「1」：1bit 「2」：2bit	1/2(2)
-C6-	ﾊﾟﾘﾃｨﾁｪｯｸ	ﾊﾟﾘﾃｨﾁｪｯｸを設定。 「oFF」：パリティなし 「1」：奇数パリティ 「2」：偶数パリティ	oFF/1/2(oFF)
-C7-	BCC ﾁｪｯｸ	BCC ﾁｪｯｸの有無を設定。 「oFF」：BCC なし 「on」：BCC あり	oFF/on(on)
-C8-	連続出力の有無	「oFF」を設定してください。 oFF:応答式（通常） on:連続送信（本仕様に関連無）	oFF/on(oFF)
-Pr-	ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ （キー操作禁止）	ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定および比較出力値の設定を禁止します。 oFF:ｷｰﾌﾟﾄﾃｸﾄなし on :ｷｰﾌﾟﾄﾃｸﾄあり ※「on」設定で比較出力付の場合、以下を設定してください。 A：全設定禁止 P：比較出力値のみ設定変更可能	oFF/on(oFF) on→A/P(A)

（注） ・ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝H1/H2 の場合、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C2～C7 は親機と同じ設定値にして下さい。
・ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C0＝「b」の場合、ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C4、C5、C7、C8 の設定は無効です。（modbus-RTU ではこれらのﾊﾟﾗﾒｰﾀを使用しません。）

通信概要　（パラメータ 1　通信内容について）

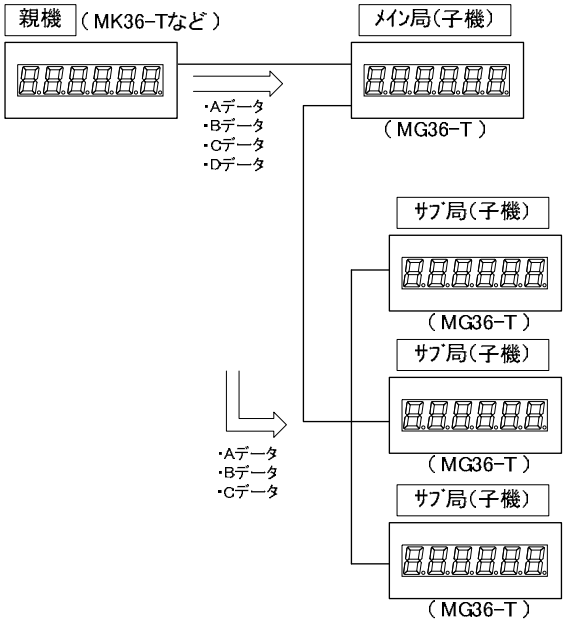
①通信表示器（パラメータ 1＝PC の場合）

■機能概要
上位機器から表示データ（通信コマンド）を送信することにより、本機にそのデータをそのまま表示します。
本機を複数台接続し、それぞれに異なるユニット NO を設定することにより、個別のデータを表示させることも可能です。
（最大 31 台まで）
通信コマンドの詳細は「通信内容」をご参照ください。



②メータ間通信（パラメータ 1＝H1/H2 の場合）

■機能概要
メイン局が定期的に親機の計測データを取得し、各サブ局へ送信します。サブ局はメイン局から送られてきたデータを表示します。
メイン局はメータから取得したデータのうちの一つをメイン局自体に表示できます。
本機を最大 4 台まで接続し、最大 4 種類のデータを遠隔表示可能です。



○メイン局のﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定

・ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1 の設定
本機 1 台のみの場合はメイン局[子機](ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1=H1)に設定。
本機を 2 台以上接続する場合は 1 台をメイン局[子機]、残りをサブ局[子機](ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1=H2)に設定してください。
・ﾊﾟﾗﾒｰﾀ[1]～[4]の設定
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ[1]にはメイン局自体に表示するﾃﾞｰﾀの種類を設定します。
表示値/Aﾃﾞｰﾀ/Bﾃﾞｰﾀ/Cﾃﾞｰﾀ から選択できます。
ﾊﾟﾗﾒｰﾀ[2]～[4]には各サブ局へ送信するデータの種類を設定します。
Aﾃﾞｰﾀ/Bﾃﾞｰﾀ/Cﾃﾞｰﾀ から選択できます。

○親機別子機の表示データ　（ﾊﾟﾗﾒｰﾀ 1＝H1 の場合）

表示値/Aﾃﾞｰﾀ/Bﾃﾞｰﾀ/Cﾃﾞｰﾀ はメータの機種によって内容が異なります。

親機の機種		子機の表示内容			
名称	シリーズ（例）	A データ	b データ	C データ	d データ※1
ｽｹｰﾘﾝｸﾞﾒｰﾀ	HA44/46、MA43/45 など	表示値	表示値	表示値	表示値
温度計	HF44/46、MF43/45 など				
ﾀｺﾒｰﾀ	HR44/46、MR43/45/55 など				
通過時間計	HJ44/46、MJ43/45 など				
瞬時積算ﾒｰﾀ	MP55、ME55 など	瞬時側	積算側	なし	
瞬時積算ﾒｰﾀ	MP33/36、ME33/36 など	瞬時側	積算側	表示値　※3	
比率計	MT33/36、MD36 など	A 側	B 側	比率	
ｶｳﾝﾀ	MK33/36 など	ｾｯﾄ値　※2	表示値	ｶｳﾝﾄ値	
ｼｮｯﾄﾀｲﾑﾒｰﾀ	ML33/36 など	表示値	表示値	表示値	
ﾃﾞｼﾞﾀﾙ設定器	MZ33/36 など	表示値	表示値　※3	表示値　※3	

※１：メイン局のみ設定可　　※２：ｾｯﾄ値はﾊﾟﾗﾒｰﾀ 7 の設定値を表示。　　※３：型式末尾-V6 のみ可能

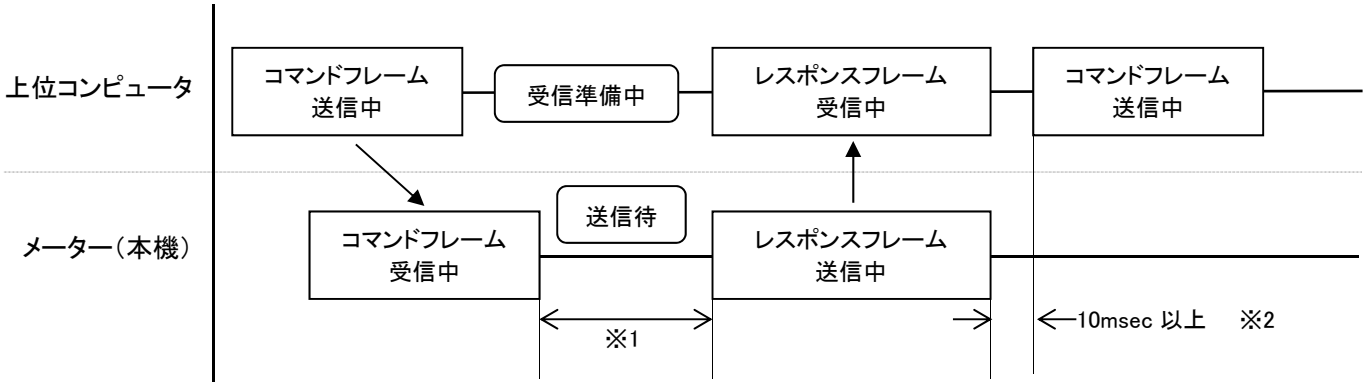
通信内容　（パラメータ 1＝PC の場合）

HENIX 通信手順（ ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C0 ＝ A ）の場合

HENIX 通信手順（ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C0＝A ）の場合の通信仕様について以下に説明します。

1.　通信手順

メーター（本機）は上位コンピュータからの「コマンドフレーム」に対して「レスポンスフレーム」を返します。



※1：通信遅延時間（パラメータ C2 で設定）
※2：上位コンピュータから連続してコマンドを送信する場合、メーターからレスポンスを受信してから 10msec 以上の時間を設けてください。

2.　メッセージの構成

・STX から ETX まで全てのコードは（BCC は除く）ASCII コードで表します。
・BCC は誤り検出のためのチェックコードで STX から ETX までの全てのキャラクタの排他的論理和で示します。

データ読み込み（本機の状態を上位コンピュータから読み込む場合）

●データ読み込みコマンド

データ読み込み要求メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

①STX：スタートコード＝02H（16 進数）
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③識別子

設定内容	識別子	備考
数値表示ﾃﾞｰﾀの読み込み	００	数値表示データ表示中のみ有効です。文字表示データの表示中に本コマンドを使用した場合は、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞ「17」禁止エラーとなります。
AL1 設定値の読み込み	０１	（比較出力無の場合は関係なし） 対象外の機種で指定した場合、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞは「17」禁止ｴﾗｰとなります。
AL2 設定値の読み込み	０２	
AL3 設定値の読み込み	０３	
AL4 設定値の読み込み	０４	
ﾘﾆｱ出力上限値の読み込み	０５	（ﾘﾆｱ出力無の場合は関係なし） 対象外の機種で指定した場合、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞは「17」禁止ｴﾗｰとなります。
ﾘﾆｱ出力下限値の読み込み	０６	
ﾎｰﾙﾄﾞﾗﾝﾌﾟの状態	０８	各ｼﾘｰｽﾞにより前面ﾗﾝﾌﾟの内容が異なります。
比較出力の状態	０９	（比較出力無の場合は関係なし） 対象外の機種で指定した場合、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞは「17」禁止ｴﾗｰとなります。

④ETX：エンドコード＝03H（16 進数）
⑤BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=1 の場合）

●データ読み込みレスポンス

データ読み込み応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④							⑤	⑥

①STX：スタートコード＝02H（16 進数）
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③レスポンスコード
④数値データ
数値データは必ず 7 桁で表します。なお、符号桁は 10^6 桁（最上位桁）でプラスの場合は 0（30H)、マイナスの場合はー（2DH）のどちらかになります。 また、時間表示などで時分区切りの「ー」もー（2DH）となります。なお、小数点は無視されます。

（例）

表示データ	ASCII コード						
	←上位桁					下位桁→	
1	30H	30H	30H	30H	30H	30H	31H
999999	30H	39H	39H	39H	39H	39H	39H
-1	2DH	30H	30H	30H	30H	30H	31H
-199999	2DH	31H	39H	39H	39H	39H	39H
99-59	30H	30H	39H	39H	2DH	35H	39H
1.00	30H	30H	30H	30H	31H	30H	30H

「08」 ホールドランプの状態について

前面ランプの状態は 7 桁で表し、その内容は以下の通り G 桁で点灯/消灯を表示します。

前面ランプの状態	④ ASCII コード						
	A	B	C	D	E	F	G
消灯	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	**30H (0)**
点灯							**31H (1)**

「09」 比較出力の状態について

比較出力 AL1/AL2･AL3/AL4 各出力と GO 出力の出力状態は 7 桁で表し、その内容は以下の通りとなります。

④ ASCII コード						
A	B	C	D	E	F	G
30H 固定 (0)	30H 固定 (0)	**AL4 の状態 ※1**	**AL3 の状態 ※2**	**AL2 の状態 ※3**	**AL1 の状態 ※4**	**GO の状態 ※5**

※1 AL1～AL4 および GO の状態・・・ 30H(0)：出力 OFF 状態　31H(1)：出力 ON 状態

⑤ETX：エンドコード＝03H（16 進数）
⑥BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=1 の場合）

［ データ読み込みコマンド例 ］

ユニット NO.「02」の表示値を読み込む場合。メータから表示値「3656」が返答された。

・データ読み込みメッセージ(上位 PC 側)

STX	0	2	0	0	ETX	BCC
02H	30H 32H		30H 30H		03H	03H

BCC：STX から ETX までの排他的論理和。
03H=02H xor 30H xor 32H xor 30H xor 30H xor 03H
※xor：排他的論理和演算

・応答メッセージ(メータ側)

STX	0	2	0	0	0	0	0	3	6	5	6	ETX	BCC
02H	30H 32H		30H 30H		30H 30H 30H 33H 36H 35H 36H							03H	35H

データ書き込み（上位コンピュータから本機に表示値などのデータを書き込む場合）

●書き込み許可コマンド

書き込み許可状態のとき、比較出力（AL）設定値などのメータ内部データの書き込みが可能です。
ただし、表示データについては書き込み許可／禁止の状態に関係なく書き込み可能です。
データの書き込みを行う場合、まず、書き込み許可の送信を行ってください。（電源投入時は書込み禁止状態になっています。）
なお、「データの書き込み許可」にした場合、「書き込み禁止」にするまで、および、電源 OFF まで書き込み許可状態となります。

書き込み許可要求メッセージ構成

STX	0	0	1	F	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

①STX：スタートコード＝02H（16 進数）
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③識別子

設定内容	識別子
書き込み禁止	0F
書き込み許可	1F

④ETX：エンドコード＝03H（16 進数）
⑤BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=1 の場合）
注：パラメータのキープロテクトは関係なし。

●書き込み許可レスポンス

書き込み許可応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

①STX：スタートコード＝02H（16 進数）
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③レスポンスコード
④ETX：エンドコード＝03H（16 進数）
⑤BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=1 の場合）

●データ書き込みコマンド

データ書き込み要求メッセージ構成

STX	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④							⑤	⑥

①STX：スタートコード＝02H（16 進数）
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③識別子

設定内容	識別子	備考
数値表示データの書き込み	１０	数値表示データの書き込みを行います。
AL1 設定値の書き込み	１１	（比較出力無の場合は関係なし） 対象外の機種で指定した場合、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞは「17」禁止ｴﾗｰとなります。
AL2 設定値の書き込み	１２	
AL3 設定値の書き込み	１３	
AL4 設定値の書き込み	１４	
ﾘﾆｱ出力上限値の書き込み	１５	（ﾘﾆｱ出力無の場合は関係なし） 対象外の機種で指定した場合、ﾚｽﾎﾟﾝｽｺｰﾄﾞは「17」禁止ｴﾗｰとなります。
ﾘﾆｱ出力下限値の書き込み	１６	
文字表示データの書き込み	２０	文字表示データの書き込みを行います。 ※このコマンドによる表示データは比較出力の対象となりません。
点滅制御	２１	表示の点滅・点灯を各桁毎に指定します。 ※このコマンドは文字表示データに対してのみ有効です。

④書き込みデータ

■数値データの書き込み（識別子＝１０、１１、１２、１３、１４、１５、１６ の場合）

STX	アドレス		識別子		数値データ（7 桁）							ETX	BCC
02H			1	0	0	0	0	0	0	0	0	03H	

数値データを 7 桁で表します。なお、符号桁は 10^6 桁（最上位桁）でプラスの場合は 0（30H）、マイナスの場合は－（2DH）のどちらかになります。 また、時間表示などで時分区切りの「－」も－（2DH）となります。なお、小数点は無視されます。

（例）

数値データ	ASCII コード						
	←上位桁						下位桁→
1	30H	30H	30H	30H	30H	30H	31H
999999	30H	39H	39H	39H	39H	39H	39H
-1	2DH	30H	30H	30H	30H	30H	31H
-199999	2DH	31H	39H	39H	39H	39H	39H
99-59	30H	30H	39H	39H	2DH	35H	39H
1.00	30H	30H	30H	30H	31H	30H	30H

[データ書き込みコマンド例]

ユニット NO.「05」の数値表示データ（表示値）を「-2340」に変更する場合。

・データ書き込みメッセージ(上位 PC 側)

STX	0	5	1	0	-	0	0	2	3	4	0	ETX	BCC
02H	30H	35H	31H	30H	2DH	30H	30H	32H	33H	34H	30H	03H	2DH

■文字表示データの書き込み（識別子＝２０ の場合）

STX	アドレス		識別子		文字表示データ（0～12 桁）					ETX	BCC
02H			2	0	0	0	・・・・	0	0	03H	

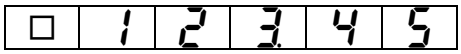
表示させるデータを ASCII 文字（文字コード表参照）で 12 桁以内で指定します。

＜文字表示データ仕様＞

1. 表示させたい文字コードを上位桁から順番に最大 12 バイトまで指定できます。
2. 消灯させたい桁はブランク(20H)を指定してください。
3. 小数点は直前の文字に付加されます。6 桁表示機種ですべての桁に小数点を点灯させる場合全 12 バイトを使用します。
4. 2つ以上連続で小数点を指定した場合は2つ目以降の小数点は表示処理されません。
5. NULL(00H)は無視されます。表示に影響させずに文字表示データの桁数を固定化したい場合などにご利用ください。
6. 小数点の直前の文字が NUL(00H)の場合、小数点は表示されません。(文字表示データの先頭が小数点の場合も同様。)
7. 実際の表示器桁数を超える桁数の表示データを指定した場合、桁あふれした上位桁側は表示されません。
8. 表示データの桁数が実際の表示器桁数よりも少ない場合は右詰めで表示されます。
9. 書き込みデータなし(0バイト)の場合、NUL(00H)と同じ扱いとなり、表示は変化しません。

例 1） 123.45 を表示させる場合の文字データ （ □はブランクを表しています。）

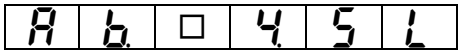
ASCII 文字	“1”	“2”	“3”	“.”	“4”	“5”
16 進	31H	32H	33H	2EH	34H	35H

表示⇒ 

※6 桁表示器の場合。

例 2) Ab.□4.5L を表示させる場合の文字データ （ □はブランクを表しています。）

ASCII 文字	“A”	“B”	“.”	“□”	“4”	“.”	“5”	“L”
16 進	41H	42H	2EH	20H	34H	2EH	35H	4CH

表示⇒ 

※6 桁表示器の場合。

例 3) 全桁消灯させる場合の文字データ （ □はブランクを表しています。）

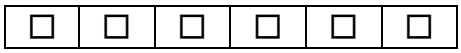
＊表示桁数分のブランクを指定

ASCII 文字	“□”	“□”	“□”	“□”	“□”	“□”
16 進	20H	20H	20H	20H	20H	20H

または、

＊1 桁のブランクを指定

ASCII 文字	“□”
16 進	20H

表示⇒  （全桁消灯）

※6 桁表示器の場合。

■点滅制御データの書き込み（識別子＝２１ の場合） ※文字表示データに対してのみ有効

STX	アドレス		識別子		点滅制御データ （6 桁）						ETX	BCC
02H			2	1	0	0	0	0	0	0	03H	

桁毎の点滅制御データを 6 桁で指定します。表示が 6 桁未満の機種をご使用の場合は右詰めで指定してください。

点滅制御データ	意味
“0”(30H)	通常表示(点灯)
“1”(31H)	点滅

※上記以外の点滅制御データを指定した場合、通常表示(点灯)となります。

例） 表示＝○●●○○● （○:点滅、●:点灯）

点滅制御データ	“1”	“0”	“0”	“1”	“1”	“0”
16 進	31H	30H	30H	31H	31H	30H

＜点滅制御の仕様＞

・次の点滅制御が指定されるまで有効。
・一度指定しておけば、別の文字表示を行っても点滅を継続します。
・点滅周期は 1 秒(0.5 秒オン、0.5 秒オフ)固定となっており、変更することはできません。
・数値表示モード(数値データの書き込みコマンドによる数値表示中)では本コマンドは無効となり、点滅しません。

⑤ETX : エンドコード＝03H（16 進数）
⑥BCC : BCC データ （通信パラメータ C7=1 の場合）

●データ書き込みレスポンス

データ書き込み応答メッセージ構成

STX	0	0	0	0	ETX	BCC
①	②		③		④	⑤

①STX：スタートコード
②アドレス：通信パラメータ C1 で設定したユニット NO
③レスポンスコード
④ETX：エンドコード
⑤BCC：BCC データ（通信パラメータ C7=1 の場合）

［ 応答メッセージ例 ］

・ユニット No.5 へのデータ書き込みコマンドの応答　（正しく書き込み完了した場合）

STX	0	5	0	0	ETX	BCC
02H	30H 35H		30H 30H		03H	04H

3.　レスポンスコード

コード	名称	内容
００	正常終了	通常の動作。
１１	メーターエラー	エラー表示中の場合およびパラメータなどキー設定中。
１２	BCC エラー	受信した BCC と計算した BCC が異なる。 BCC がない。(BCC 有りの場合)
１３	パリティエラー	コマンドフレームのキャラクタでパリティエラーが発生。
１４	フォーマットエラー	受信したフレームが所定バイト数を超えている。 規定外の ASCII コードが指定されている。(数値データなどで)
１５	オーバーランエラー	コマンドフレームのキャラクタでオーバーランエラーが発生。
１６	フレーミングエラー	コマンドフレームのキャラクタでフレーミングエラー（ストップビットが「0」）が発生。
１７	禁止エラー	書き込み禁止状態で書き込みを要求した。 コンパレータ出力無しなのに、AL 設定値変更を要求した。
１８	エリアエラー	設定範囲外の設定を要求した。

※複数のエラーが発生した場合は、エラーコードの小さいものをレスポンスする。

4.　特記事項

①コマンドフレーム内に STX および ETX が組み込まれていない時、レスポンスを返さない。
　従って、コマンドフレームにエラーがあってもレスポンスを返さない。
②STX を受信した時点でそれ以前に受信した内容はクリアする。
③通信についてはパラメータのキープロテクトを無視する。
④アドレス（ユニット NO）の該当するメータのみレスポンスする。
　該当するメータがない場合は、いずれの子局もレスポンスしない。
⑤通信中もパラメータのキー設定は可能。ただし、設定が有効となるのは計測モード復帰時。

Modbus-RTU 通信手順 (ﾊﾟﾗﾒｰﾀ C0 ＝ B) の場合

1. メッセージ仕様

●コマンドメッセージの構成

①アドレス	②ファンクション コード	③データ部	④エラーチェック コード
1バイト	1バイト	nバイト	2バイト

①アドレス ･･･ 本機の通信設定パラメータ-C1-の「ユニット No」。
②ファンクションコード ･･･ 指令内容を示すコード
③データ部 ･･･ ファンクションコードに付随するデータ
④エラーチェックコード ･･･ CRC-16 ($X^{16}+X^{15}+X^{2}+X^{1}+1$)

注）マスター機器から連続でコマンド送信する場合、スレーブ機器からのレスポンス受信後、
次のコマンドを送信するまでの間隔を 20msec 以上確保してください。

●レスポンスメッセージの構成

【正常時のレスポンス】
本機はコマンドメッセージ（指令内容）に対する実行結果をレスポンスとして返します。
正常時のレスポンスの詳細については、各メッセージの解説をご参照ください。

【異常時のレスポンス】
コマンドメッセージの内容に誤りがある場合など、本器がコマンドを実行できない異常が発生した場合は、
エラーレスポンスを返します。エラーレスポンスの構成は以下の通りです。

フィールド名	値	ﾊﾞｲﾄ数
①アドレス	本機のアドレス	1
②ファンクションコード	??H＋80H (*1)	1
③エラーコード(データ部)	(*2)	1
④エラーチェックコード	CRC	2

(*1)コマンドメッセージのファンクションコードに 80H を加えたコードとなります。
(*2)エラーコード一覧

ｴﾗｰｺｰﾄﾞ	意味	説明
01H	不正ファンクション	本機が未サポートのファンクションコードが指定されました。
02H	不正 ID	存在しない ID か、そのコマンドでは使用できない ID が指定されました。
03H	不正データ	データの数や範囲の指定に誤りがあります。
04H	プロテクト	パラメータの書き込み禁止状態または、読み込み不可 ID の読み込みのため実行できません。
05H	機器エラー	本機がエラー表示中やパラメータ設定動作中のため、コマンドが実行できません。

【レスポンスなし（無応答）】　下記の条件に該当する場合、本機はコマンドに対する応答を返しません。
- ブロードキャストのコマンドメッセージには応答を返しません。
- 本機の Modbus-RTU アドレス（ユニット No）以外へのコマンドメッセージを受信した場合
- コマンドメッセージ中のエラーチェックコード（CRC)に誤りがある場合
- 通信エラー（パリティエラーなど）が発生した場合
- フレームの途中で 3.5 キャラクタ伝送時間以上の無通信を検出した場合

●ファンクションコードとレジスタ
【本機で使用するファンクションコード一覧】

ﾌｧﾝｸｼｮﾝｺｰﾄﾞ	機能	対象レジスタ	レジスタ番号	ﾌﾞﾛｰﾄﾞｷｬｽﾄ
02H	ステータス読み取り	入力レジスタ	1XXXX	不可
03H	データ読み込み	保持レジスタ	4XXXX	不可
05H	スイッチ切り替え	コイル	0XXXX	可
08H	テスト機能	なし	－	不可
10H	データ書き込み	保持レジスタ	4XXXX	可

データ読み込み（本機のデータを上位コンピュータから読み込む場合）

本機の計測データ、設定データ等を読み出します。
読み込み開始 ID から 4 ワード分（8 桁）の 1 データを読み込みます。複数のデータを一括で読み込むことはできません。
読み込みデータは保持レジスタ（レジスタ番号＝4XXXX）が対象となります。
読み込み不可の ID(レジスタ)を指定した場合は

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		03H
読み込み開始 ID（*1）	上位	
	下位	
読み込みワード数（*2）	上位	00H
	下位	04H
CRC	上位	
	下位	

(*1)ID は 2.データ・レジスタ仕様を参照。
(*2)ワード数は 4 固定です。

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		03H
データバイト数		08H
データ 1 （最上位桁、2 桁目）	上位	
	下位	
データ 2 （3 桁目、4 桁目）	上位	
	下位	
データ 3 （5 桁目、6 桁目）	上位	
	下位	
データ 4 （7 桁目、最下位桁）	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

状態取得（本機の状態を上位コンピュータから読み込む場合）

本機の現在の各種状態データ(比較出力の ON/OFF 状態など)を一括で取得します。
個々の状態を個別の ID を指定して読み出すことはできません。
状態データは入力ステータス（レジスタ番号＝1XXXX）が対象となります。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		02H
読み込み開始 ID（*1）	上位	00H
	下位	00H
読み込みデータ数（*2）	上位	00H
	下位	08H
CRC	上位	
	下位	

(*1)ID は 0000H 固定です。
(*2)読み込みデータ数は 8 固定です。

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		02H
データバイト数		01H
状態データ ※		
CRC	上位	
	下位	

※状態データの構成は下記参照。

※状態データの構成

比較出力と前面ランプの状態が「状態データ」フィールドに以下のビット構成で格納されます。

	MSB							LSB
状態データ	0	LP1	LP0	AL4	AL3	AL2	AL1	G0

（注）上位 1 ビットは予備（0 固定）

●比較出力 AL1～AL4,G0 の状態

状態データの該当ビット	比較出力状態
0	出力 OFF
1	出力 ON

●前面ランプの状態

状態データの該当ビット LP1	LP0	ランプ状態
0	0	消灯
0	1	点灯
1	0	点滅

データ書き込み許可／禁止（本機に対するデータ書き込み許可／禁止の切り替え）

比較出力（AL）設定値などのメータ内部データの書き込みの許可または禁止を本機に指示します。
本機に対するデータ書き込みの前に、書き込み許可モードに切り替える必要があります。
（電源投入時は書き込み禁止モードになっています。）
ただし、表示データについては書き込み許可／禁止の状態に関係なく書き込み可能です。
なお、「データの書き込み許可」にした場合、「書き込み禁止」にするまで、および、電源 OFF まで書き込み許可状態となります。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		05H
切り替え対象 ID	上位	00H
	下位	00H
書き込み許可／禁止※	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		05H
切り替え対象 ID	上位	00H
	下位	00H
書き込み許可／禁止	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

※「書き込み許可／禁止」フィールドにセットする値は下記の通りです。

書き込み許可／禁止	セットする値
許可	FF00H
禁止	0000H

データ書き込み（本機に設定値などのデータを書き込む場合）

●「数値表示データ」、「AL1～4 設定値」、「リニア出力上限・下限」の書き込み（書き込み対象 ID=0000H～0018H）

設定値などのデータを本機に書き込むときに使用します。
書き込み許可モードのときのみ実行可能です。（数値表示データは書き込みモードに関係なく書き込み可）
一度に書き込めるデータはひとつの設定値のみです。複数の設定値を一括で書き込むことはできません。
指定した書き込み開始 ID から 4 ワード分の値を、書き込みデータ 1～4 で指定する値（8 桁データ）に書き換えます。
データ書き込みは保持レジスタ（レジスタ番号＝4XXXX）が対象となります。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID (*1)	上位	
	下位	
書き込みワード数 (*2)	上位	00H
	下位	04H
書き込みバイト数 (*2)		08H
書き込みデータ 1（最上位桁、2 桁目）	上位	
	下位	
書き込みデータ 2（3 桁目、4 桁目）	上位	
	下位	
書き込みデータ 3（5 桁目、6 桁目）	上位	
	下位	
書き込みデータ 4（7 桁目、最下位桁）	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

(*1) ID は 2. データ・レジスタ仕様を参照。
(*2) 書き込みワード数、バイト数は固定。

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	
	下位	
書き込みワード数	上位	00H
	下位	04H
CRC	上位	
	下位	

●「文字表示データ」の書き込み（書き込み対象 ID=0020H）

任意の文字を表示させる場合に使用します。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	00H
	下位	20H
書き込みワード数（*1）	上位	00H
	下位	06H
書き込みバイト数（*1）		0CH
文字表示データ		
CRC	上位	
	下位	

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	00H
	下位	20H
書き込みワード数	上位	00H
	下位	06H
CRC	上位	
	下位	

（*1） 書き込みワード数、バイト数は固定。

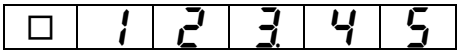
＜文字表示データ仕様＞

1. 表示させたい文字コードを上位桁から順番に 12 バイト固定で指定してください。（文字コード表参照）
2. 消灯させたい桁はブランク(20H)を指定してください。
3. 小数点は直前の文字に付加されます。6 桁表示機種ですべての桁に小数点を点灯させる場合全 12 バイトを使用します。
4. 2つ以上連続で小数点を指定した場合は2つ目以降の小数点は表示処理されません。
5. NUL(00H)は無視されます。表示に影響させずに文字表示データのフォーマットを固定化したい場合などにご利用ください。
6. 小数点の直前の文字が NUL(00H)の場合、小数点は表示されません。（文字表示データの先頭が小数点の場合も同様。）
7. 実際の桁数を超える表示桁数データを指定した場合、桁あふれした上位桁側は表示されません。
8. 表示データの桁数が実際の表示器桁数よりも少ない場合は右詰めで表示されます。

（注） このコマンドによる表示データは比較出力の対象となりません。

例 1） 123.45 を表示させる場合の文字表示データ　（ □はブランクを表しています。 ）

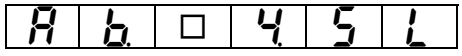
ASCII 文字							“1”	“2”	“3”	“.”	“4”	“5”
16 進	00H	00H	00H	00H	00H	00H	31H	32H	33H	2EH	34H	35H

表示⇒ 

※6 桁表示器の場合。

例 2） Ab.□4.5L を表示させる場合の文字表示データ （ □はブランクを表しています。 ）

ASCII 文字					“A”	“B”	“.”	“□”	“4”	“.”	“5”	“L”
16 進	00H	00H	00H	00H	41H	42H	2EH	20H	34H	2EH	35H	4CH

表示⇒ 

※6 桁表示器の場合。

例 3) 全桁消灯させる場合の文字表示データ　(□はブランクを表しています。)

＊表示桁数分のブランクを指定

ASCII 文字							“□”	“□”	“□”	“□”	“□”	“□”
16 進	00H	00H	00H	00H	00H	00H	20H	20H	20H	20H	20H	20H

または、

＊1 桁のみブランクを指定

ASCII 文字	“□“											
16 進	20H	00H	00H	00H	00H	00H	00H	00H	00H	00H	00H	00H

表示⇒ | □ | □ | □ | □ | □ | □ | (全桁消灯)

※6 桁表示器の場合。

●「点滅制御データ」の書き込み (書き込み対象 ID=0028H)

文字表示データの点滅または点灯を制御したい場合に使用します。
桁毎の点滅制御データを 6 桁で指定します。表示が 6 桁未満の機種をご使用の場合は右詰めで指定してください。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	00H
	下位	28H
書き込みワード数 (*1)	上位	00H
	下位	03H
書き込みバイト数 (*1)		06H
点滅制御データ (10^5桁)		
点滅制御データ (10^4桁)		
点滅制御データ (10^3桁)		
点滅制御データ (10^2桁)		
点滅制御データ (10^1桁)		
点滅制御データ (10^0桁)		
CRC	上位	
	下位	

(*1) 書き込みワード数、バイト数は固定。

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		10H
書き込み開始 ID	上位	00H
	下位	28H
書き込みワード数	上位	00H
	下位	03H
CRC	上位	
	下位	

点滅制御データ	意味
“0”(30H)	通常表示(点灯)
“1”(31H)	点滅

※上記以外の点滅制御データを指定した場合、通常表示(点灯)となります。

例) 表示＝○●●○○● (○:点滅、●:点灯)

桁位置	10^5	10^4	10^3	10^2	10^1	10^0
ASCII	“1”	“0”	“0”	“1”	“1”	“0”
16 進	31H	30H	30H	31H	31H	30H

＜点滅制御の仕様＞
・次の点滅制御が指定されるまで有効。
・一度指定しておけば、別の文字表示を行っても点滅を継続します。
・点滅周期は 1 秒(0.5 秒オン、0.5 秒オフ)固定となっており、変更することはできません。
・数値表示モード(数値データの書き込みコマンドによる数値表示中)では本コマンドは無効となり、点滅しません。

ループバックテスト（本機と上位装置の接続状態をテストする場合）

本機と上位装置が Modbus-RTU プロトコルで正常に通信できるかをチェックします。
コマンドメッセージフレームの内容がそのままレスポンスとして折り返されていれば正常です。

■コマンド

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		08H
診断サブコード	上位	00H
	下位	00H
ユーザーデータ ※	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

※任意の 1 ワードのデータを使用可

■レスポンス

フィールド名		値
アドレス		
ファンクションコード		08H
診断サブコード	上位	00H
	下位	00H
ユーザーデータ	上位	
	下位	
CRC	上位	
	下位	

正常応答の場合のレスポンスは、コマンドと全く同じメッセージ列になります。

2. データ・レジスタ仕様

本機の Modbus-RTU 通信で使用するデータ・レジスター覧を以下に示します。

ﾚｼﾞｽﾀ分類	ﾚｼﾞｽﾀ番号	ID (*1)	データ名称	ﾜｰﾄﾞ数	属性 (*2)	データ仕様
保持ﾚｼﾞｽﾀ	40001	0000H	数値表示データ	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40005	0004H	AL1 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40009	0008H	AL2 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40013	000CH	AL3 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40017	0010H	AL4 設定値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40021	0014H	リニア出力上限値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40025	0018H	リニア出力下限値	4	R/W	ASCII コード 8 桁 (*3)
	40029	001CH	（予備）	4	R/W	
	40033	0020H	文字表示データ	6	W	
	40039	0026H	（予備）	2	W	
	40041	0028H	点滅制御データ	3	W	
	40044	002BH	（予備）	1	W	
入力ｽﾃｰﾀｽ	10001	0000H	比較出力 G0 状態	1	R	
	10002	0001H	比較出力 AL1 状態	1	R	
	10003	0002H	比較出力 AL2 状態	1	R	
	10004	0003H	比較出力 AL3 状態	1	R	
	10005	0004H	比較出力 AL4 状態	1	R	
	10006	0005H	前面ランプの状態	1	R	
	10007	0006H	（予備）	1	R	常時 0
	10008	0007H	（予備）	1	R	常時 0
ｺｲﾙ	00001	0000H	書き込み許可／禁止	1	W	

(*1) コマンドメッセージにセットする ID にはこの値を使用します。
(*2) R：リードのみ可、W：ライトのみ可、R/W：リードライト可、を示します。
(*3) 4 ワード（8 桁）の並び順は下記の通りです。

比較出力 AL1 の設定値のデータ構成。設定値が”123456”のときの例。

レジスタ番号	40005		40006		40007		40008	
数値(ASCII)		0	1	2	3	4	5	6
数値(16 進数)	20H	30H	31H	32H	33H	34H	35H	36H
位	千万	百万	十万	万	千	百	十	一

文字コード表

文字表示データに使用する文字コードと 7 セグ LED 表示は下表の通りに対応しています。

ASCII 文字	表示	コード (HEX)
NUL	※1	00H
SOH	ブランク	01H
STX	ブランク	02H
ETX	ブランク	03H
EOT	ブランク	04H
ENQ	ブランク	05H
ACK	ブランク	06H
BEL	ブランク	07H
BS	ブランク	08H
HT	ブランク	09H
LF	ブランク	0AH
VT	ブランク	0BH
FF	ブランク	0CH
CR	ブランク	0DH
SO	ブランク	0EH
SI	ブランク	0FH
DLE	ブランク	10H
DC1	ブランク	11H
DC2	ブランク	12H
DC3	ブランク	13H
DC4	ブランク	14H
NAK	ブランク	15H
SYN	ブランク	16H
ETB	ブランク	17H
CAN	ブランク	18H
EM	ブランク	19H
SUB	ブランク	1AH
ESC	ブランク	1BH
FS	ブランク	1CH
GS	ブランク	1DH
RS	ブランク	1EH
US	ブランク	1FH
ブランク	ブランク	20H
!	ブランク	21H
“	ブランク	22H
#	ブランク	23H
$	ブランク	24H
%	ブランク	25H
&	ブランク	26H
‘	'	27H
(	ブランク	28H
)	ブランク	29H
*	ブランク	2AH

	ASCII 文字	表示	コード (HEX)
*2	+	ブランク	2BH
	,	ブランク	2CH
*2	-	-	2DH
	.	.	2EH
	/		2FH
	0		30H
	1		31H
	2		32H
	3		33H
	4		34H
	5		35H
	6		36H
	7		37H
	8		38H
	9		39H
	:	ブランク	3AH
	;	ブランク	3BH
	<	ブランク	3CH
	=		3DH
	>	ブランク	3EH
	?	ブランク	3FH
	@	ブランク	40H
	A		41H
	B		42H
	C		43H
	D		44H
	E		45H
	F		46H
	G		47H
	H		48H
	I		49H
	J		4AH
	K		4BH
	L		4CH
	M		4DH
	N		4EH
	O		4FH
	P		50H
	Q		51H
	R		52H
	S		53H
	T		54H
	U		55H

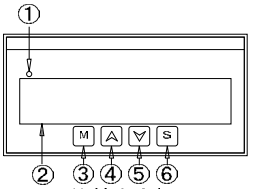
ASCII 文字	表示	コード (HEX)
V		56H
W		57H
X		58H
Y		59H
Z		5AH
[		5BH
¥	ブランク	5CH
]		5DH
^	ブランク	5EH
_		5FH
`		60H
a		61H
b		62H
c		63H
d		64H
e		65H
f		66H
g		67H
h		68H
i		69H
j		6AH
k		6BH
l		6CH
m		6DH
n		6EH
o		6FH
p		70H
q		71H
r		72H
s		73H
t		74H
u		75H
v		76H
w		77H
x		78H
y		79H
z		7AH
{	ブランク	7BH
|	ブランク	7CH
}	ブランク	7DH
~		7EH
DEL	ブランク	7FH

※1 NUL コードは無視されます。表示に全く影響しません。

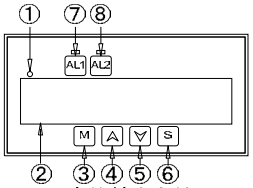
※2 HENIX 手順の場合、02H および 03H はそれぞれ STX,ETX として処理されるため、表示データには使用しないでください。

※コード＝80H～FFH を指定した場合は表示不能文字のためブランク表示となります。

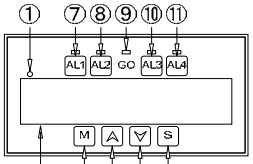
前面ｷｰ説明



比較出力無



2点比較出力付



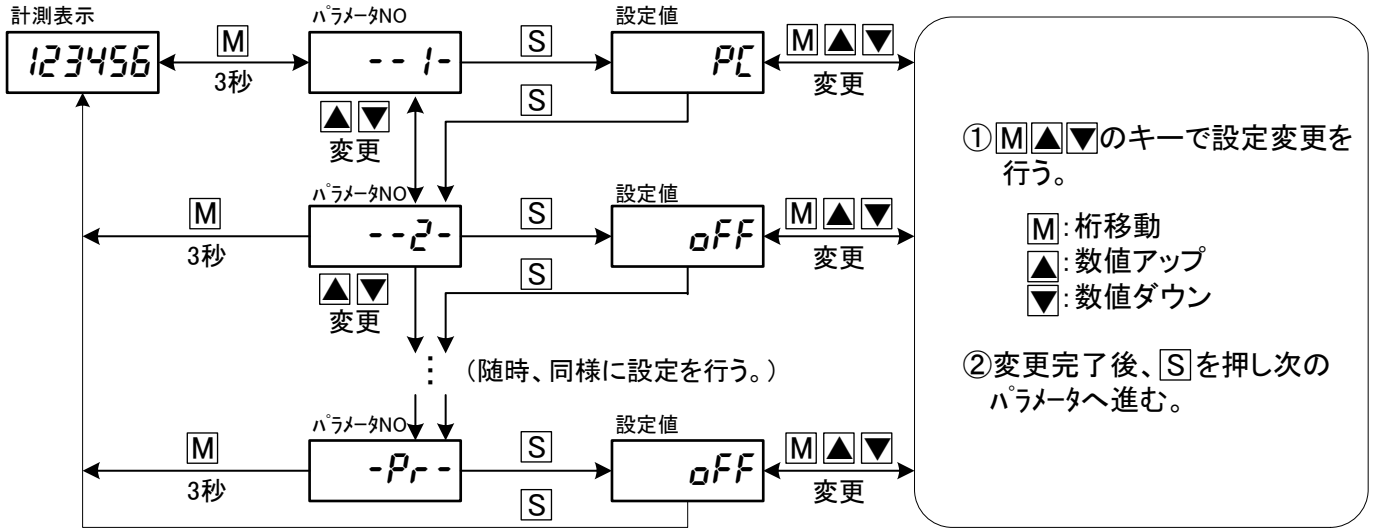
4点比較出力付 または
4点比較出力付＋GO出力付

NO	記号	内　　容
①	ﾎｰﾙﾄﾞﾗﾝﾌﾟ	・ﾎｰﾙﾄﾞ表示時に点灯します。（端子⑥-③短絡時、点灯する）
②	７ｾｸﾞ LED	上位機種からのデータを表示しなす。 データがない場合、小数点のみ点灯します。（下記） 。 。 。 。 。 。　電源投入時、データが来るまでこの状態が続きます。
③	M(モード)キー	（1）ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定 ・3 秒間押すとﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態になり、再度 3 秒間押すと計測値を表示に戻ります。 （2）設定時 ・押すごとに数値桁移動します。 （桁移動しない項目もあります。） （3）ﾃｽﾄﾓｰﾄﾞ ・押しながら電源投入するとﾃｽﾄﾓｰﾄﾞになります。 ・Mを 3 秒間押すと計測表示に戻ります。
④	▲（アップ）キー	・各種設定時、押すごとに数値ｱｯﾌﾟします。
⑤	▼(ダウン)キー	・各種設定時、押すごとに数値ﾀﾞｳﾝします。
⑥	S(セット)キー	・ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定値の変更を内部ﾒﾓﾘに記憶させます。
⑦	AL1(ｱﾗｰﾑ 1)キー	（1）AL1 設定値確認 ・1 回押すと AL1 設定値を表示し、再度押すと計測表示に戻ります。 （2）AL1 設定 ・3 秒間押すと AL1 設定状態になります。 ・AL1 を 1 回押すと計測表示に戻ります。
⑧	AL2(ｱﾗｰﾑ 2)キー	（動作は、AL1 と同じ）
⑨	GO ﾗﾝﾌﾟ	・GO 出力時、点灯します。 ※GO 出力は AL1～AL4 全てが出力 OFF 時に ON します。 （注）MG36□-3、-4 の場合のみ GO 出力が付きます。
⑩	AL3(ｱﾗｰﾑ 3)キー	（動作は、AL1 と同じ）
⑪	AL4(ｱﾗｰﾑ 4)キー	（動作は、AL1 と同じ）

各種　操作方法

●ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定方法

Mキーを 3 秒間押すと、パラメータ設定状態になります。
パラメータ NO を表示し、次にSキーを押すとその設定値を表示します。
随時、この繰り返しで、最終ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr まで必要に応じて設定してください。



○ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定について

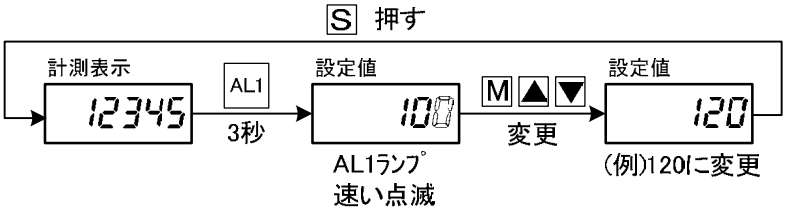
1. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ NO 表示状態でMを押すごとに、
   --1→L1→Pr→--1→･･･と移動します。
2. Mを 3 秒間押すと、どのﾀｲﾐﾝｸﾞでも計測状態に戻ります。
   このとき、Sを押したところまで入力完了となります。
3. 60 秒間設定変更がないと計測状態に戻ります。
   このときも、Sを押したところまで入力完了となります。
4. ﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定中であっても計測は行われているので計測中に設定変更しても、ｱﾅﾛｸﾞ出力など各特殊機能は動作します。
   Sを押して設定完了後、新しい設定で動作します。
5. ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄ(ﾊﾟﾗﾒｰﾀ Pr)ON の場合、ﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定値を表示しても設定変更は出来ません。設定変更する場合は、まず、ｷｰﾌﾟﾛﾃｸﾄを oFF にした後に設定変更を行ってください。
6. 設定範囲外の設定することができる項目がありますが、S押しでの内部書き込みを受け付けません。

●比較出力値設定方法および確認方法（比較出力付の場合のみ）

○比較出力値の設定方法

下記に AL1 の設定手順を記します。
計測表示状態で AL1 を 3 秒間押します。

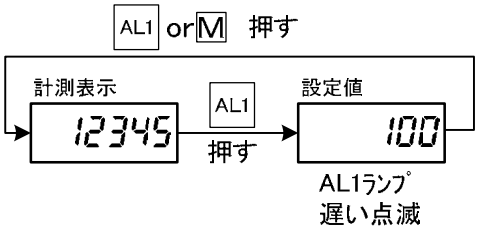
<注 1>設定中に AL1 を押すと計測値に戻ります。
設定値の変更はSを押して完了となります。
<注 2>AL2～AL4 についても同様です。
AL2 の場合は AL2 を 3 秒間押して設定変更します。



○比較出力値の確認方法

下記に AL1 の手順を記します。
計測表示状態で AL1 を押します。

<注 1>設定値表示中にM、AL1 を押すと計測値に戻る。
<注 2>AL2～AL4 についても同様です。
AL2 の場合は AL2 を押して設定確認します。



※出荷時の比較出力設定値：AL1=0, AL2=0, AL3=0, AL4=0

●比較出力ﾊﾟﾗﾒｰﾀの内容および設定方法　（比較出力付の場合のみ）

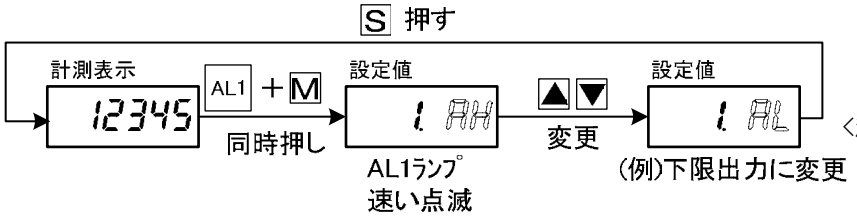
AL1～AL4 の上下限指定を行います。下記に AL1 の設定手順を記します。(AL2, AL3, AL4 についても同様です。)
設定内容は以下の通りです。(下記は AL1 の場合で、AL2～AL4 についてもこれに準じます。)

3 桁目(左側)	2 桁目	1 桁目(右側)
ｱﾗｰﾑ NO	(消灯)	上下限選択
1.:AL1 2.:AL2 3.:AL3 4.:AL4	(消灯)	H:上限出力 L:下限出力

・↑または↓で 1.□H →1.□L →1.OFF などに切替ります。　(□：消灯)
・なお、1.OFF は出力動作無(休止状態)になります。
・出荷時の設定値：　AL1＝1.□H（上限出力）
　　AL2＝2.□L（下限出力）
　　AL3＝3.□L（下限出力）
　　AL4＝4.□L（下限出力）

○比較出力ﾊﾟﾗﾒｰﾀの設定方法

設定内容は以下の通りです。



<注 1>手順①の同時押しのﾀｲﾐﾝｸﾞは、先にMを押してAL1 を押してください。Mのみを 3 秒以上押すとﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定状態になり、AL1 を先に押すとAL1 の比較出力設定値を表示しますのでご注意下さい。
<注 2>設定中にMを押すと計測値に戻ります。
設定値の変更はSを押して完了となります。

リニア出力校正（-CL-キャリブレーション）

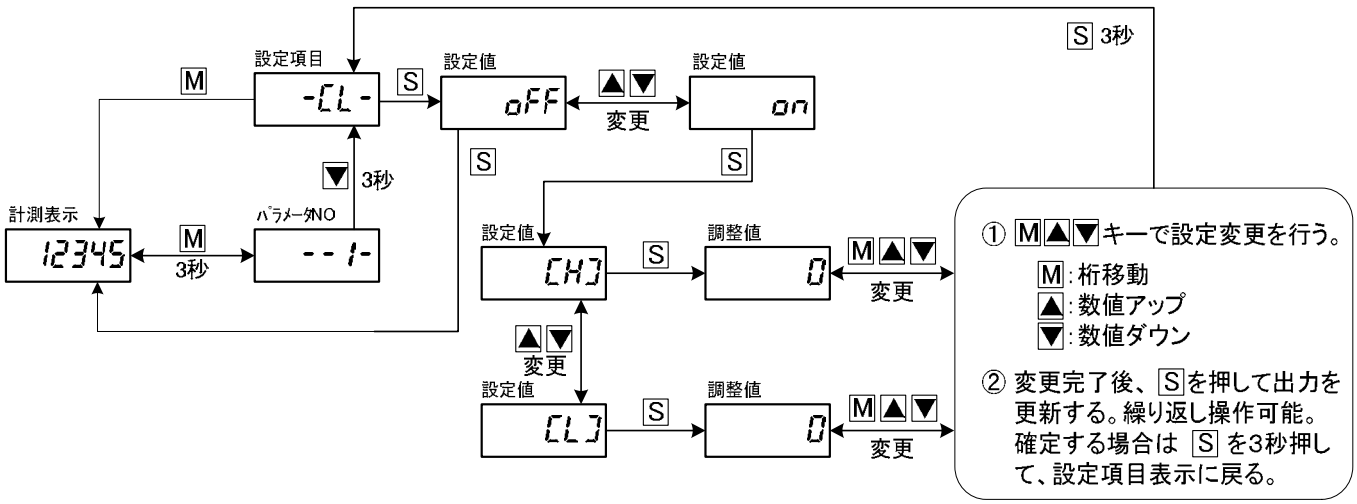
リニア出力の微調整や校正が必要な場合のみ、操作してください。

○リニア出力校正パラメータ

	名称	設定範囲	初期値	内容説明
-CL-	実行の有無	oFF/on	oFF	oFF：校正ナシ Sを押した後、計測値表示に戻ります。 on　：校正有 以下の内容が表示され補正が行われます。 Sを押し［H］［L］選択状態になります。 ※「on」を設定しても、次回は「oFF」になります。 ※「oFF」が設定されても、次の［H］［L］の設定値は有効。
［H］	上限出力の調整	-999～999	0	▲と▼で任意の数値に変更後、Sで出力更新する。 Sの3秒押しで記憶し、「-CL-」に戻ります。
［L］	下限出力の調整	-999～999	0	（上記同様）

（備考）
・［H］および［L］の調整値が「0」の時、出荷時の出力に戻ります。
・調整値は±999設定が可能で、＋側に設定すると出力は大きくなり、反対に－側に設定すると出力は小さくなります。
・調整値の目安
　1digit≒（出力スパン巾）÷（分解能）
　4-20mA出力の場合、分解能は約40,000。　したがって、16mA÷40000=0.0004mA
　設定範囲±999は、ゼロ側スパン側ともに最大約±0.4mA調整可能ということになります。

○リニア出力校正方法　出力端子⑩⑪に電圧計（または電流計）を接続し、以下の手順で校正を行います。



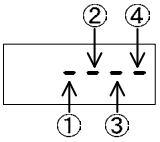
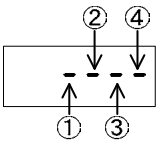
(注1)［H］又は［L］でSを押した後は次の操作を行うまで校正状態が続きます。（時間制限無し）
・Mを3秒間押す→校正キャンセル
・Sを3秒押す→校正完了し「-CL-」表示に戻ります。

(注2)「-CL-」→「oFF」又は「on」で10秒間放置すると計測表示に戻ります。

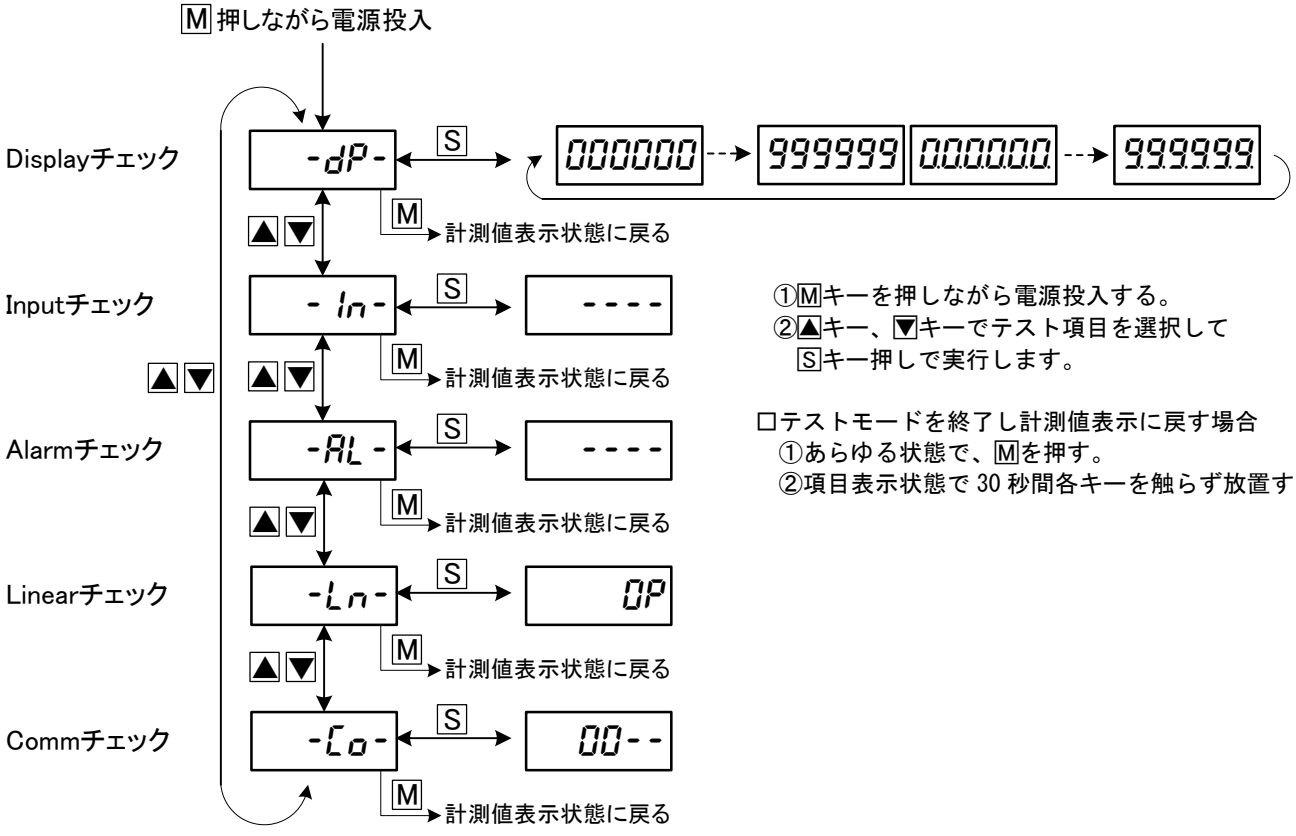
テストモード

各種機能などをテストするモードです。通常、操作する必要はありません。

○テスト内容

チェック名	項目	内容
Display ﾁｪｯｸ	-dP-	7segLED チェックを行います。
Input ﾁｪｯｸ	- In-	 ①② 本機の仕様に関係なし。(常に - を表示します。) ③INH 入力 (端子④) の有無 (有り : C 無し : -) ④HOLD 入力 (端子⑤) の有無 (有り : d 無し : -)
Alarm ﾁｪｯｸ	-AL-	 ①AL1 を押すと出力およびﾗﾝﾌﾟ点灯 (1) ②AL2 を押すと出力およびﾗﾝﾌﾟ点灯 (2) ③AL3 を押すと出力およびﾗﾝﾌﾟ点灯 (3) ④AL4 を押すと出力およびﾗﾝﾌﾟ点灯 (4) ※各 AL が押されていない時は出力なし、ランプ消灯、表示 - となります。
Linear ﾁｪｯｸ	-Ln-	0P : 出力 0% (例 : 4-20mA の場合、4mA) 25P : 出力 25% (例 : 4-20mA の場合、8mA) 50P : 出力 50% (例 : 4-20mA の場合、12mA) 75P : 出力 75% (例 : 4-20mA の場合、16mA) 100P : 出力 100% (例 : 4-20mA の場合、20mA)
Comm (RS485) ﾁｪｯｸ	-Co-	RS485 通信のﾁｪｯｸを行います。詳細は、下記「○通信機能テスト」をご参照ください。

○操作方法



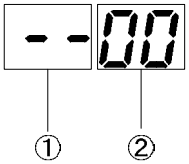
①Mキーを押しながら電源投入する。
②▲キー、▼キーでテスト項目を選択して
Sキー押しで実行します。

□テストモードを終了し計測値表示に戻す場合
①あらゆる状態で、Mを押す。
②項目表示状態で 30 秒間各キーを触らず放置する。

○通信機能テスト

本ﾃｽﾄ機能は RS485 通信の接続およびﾊﾟﾗﾒｰﾀ設定に問題がないかﾁｪｯｸしたい場合に使用してください。
接続相手（上位 PC、親機等）からの通信コマンドを正しく受信できるかをテストします。
(注)・接続相手からコマンドを送信する構成(本機のパラメータ 1＝PC または H2)の場合のみ機能します。
　　・通信コマンドに対する応答は返しません。

■通信テスト中の表示内容



①エラー状態表示
最後に発生したエラーの種類を表示します。

表示	エラー内容
--	エラー未発生
EA	アドレス異常（ユニットＮｏ異常）
EC	CRC 不一致（MODBUS-RTU プロトコル設定時のみ）
Eb	BCC 不一致（HENIX プロトコル選択時のみ）
ES	STX なし（HENIX プロトコル選択時のみ）
EE	ETX なし（HENIX プロトコル選択時のみ）
EF	フレームサイズ異常（最小未満または最大超え）

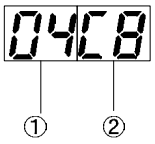
②正常フレーム受信数表示
正常に受信できたフレーム数を 10 進数で累積表示します。

■通信テスト中のキー操作仕様

入力キー	動作仕様	表示内容
▲	ｴﾗｰ状態表示、正常ﾌﾚｰﾑ受信数をクリアします。	--00
▼	最後に受信したフレームのデータを確認するモードに入ります。(下記ダンプモード参照)	（下記ダンプモード参照）
S	通信テストを終了し、テスト機能選択状態に戻ります。	-Co-
M	テストモードを終了し、計測モードに戻ります。	

■ダンプモード

最後に受信したデータの中身を参照するモード。
現在のオフセット位置（先頭からのバイト数）とそのオフセット位置の受信データを表示することができます。

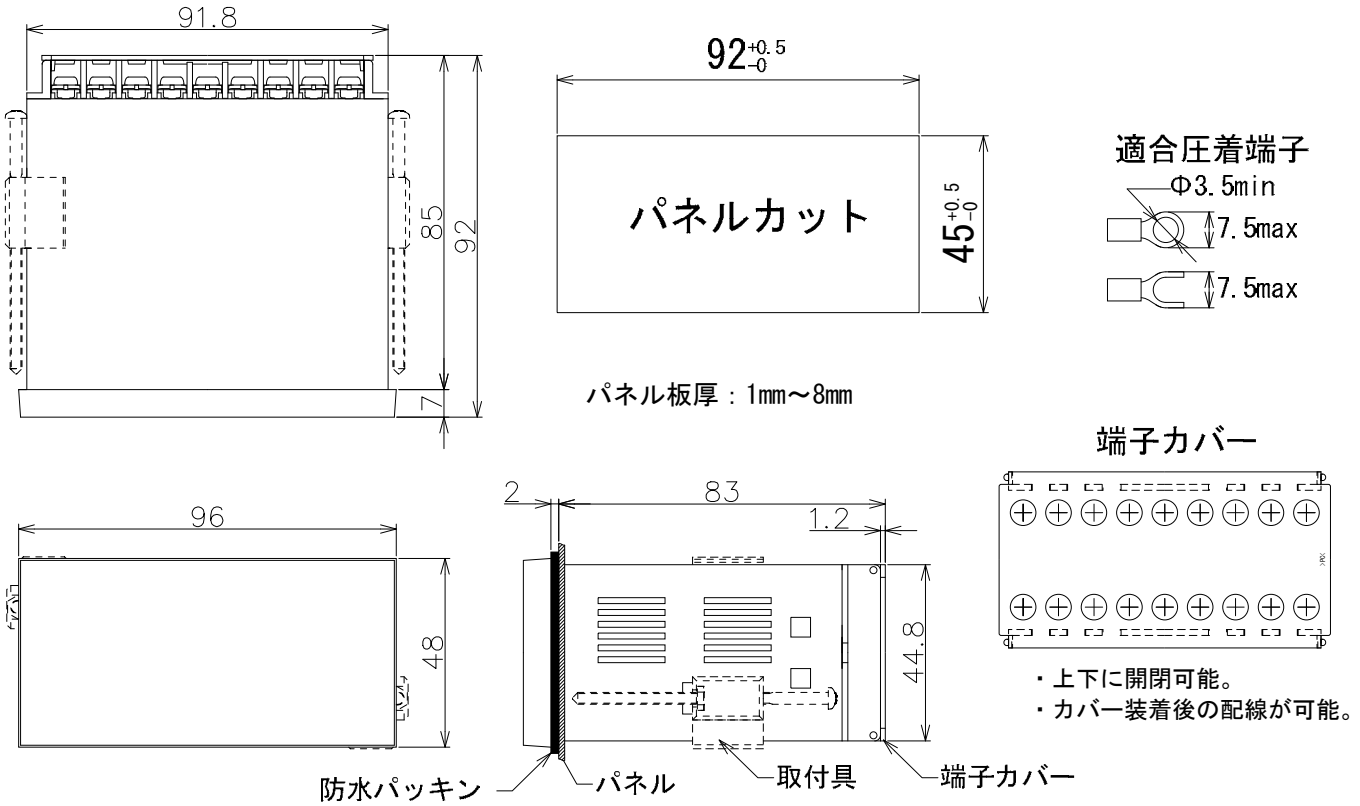


①オフセット位置（10 進数）
　先頭から何バイト目であるかを示します。
②データ（16 進数）
　現在のオフセット位置のデータを示します。

・ダンプモード時のキー操作

入力キー	動作仕様
▲	オフセットを１バイト戻します。
▼	オフセットを１バイト進めます。
S	ダンプモードを終了し、通信テストの待機状態に戻ります。
M (3 秒)	

外形寸法図



型式構成

MG36 ① A - ② 2 ③ C T -V6

① 電源電圧	
A	AC85V～264V
E	DC11V～48V

② 比較出力	
(無)	比較出力無
2	2点(リレーc接点)
3	4点＋GO(フォトモスリレー)
4	4点＋GO(トランジスタ)
5	4点(フォトモスリレー)
6	4点(トランジスタ)

③ リニア出力	
(無)	リニア出力無
A	0-5V
B	1-5V
C	4-20mA
D	0-10V

商品に関するお問い合わせは
右記へご連絡ください

Henix ヘニックス株式会社

□本　社
〒572-0038 大阪府寝屋川市池田新町 1-25
TEL　072-827-9510　FAX　072-827-9445